

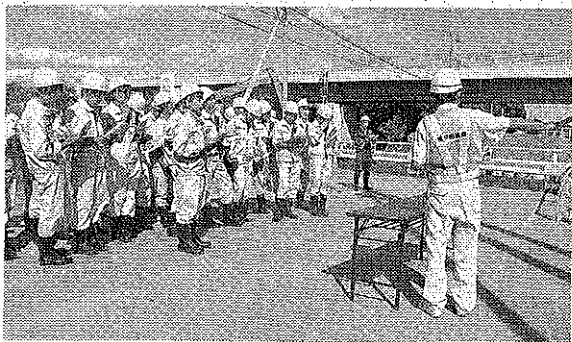
若い技術者の必要性説く

地元高校生招き現場見学会

帯広建協

【帯広】帯広建設業協会

(萩原一利会長)は18日、帯広市内の高校生を



招き、現場見学会を開いた。生徒らは現場で技術者らの説明を聞きなが

生徒に建設業の魅力を伝えた

ら、建設業への理解を深めた。

帯広農高農業土木工学科2年生40人と帯広工高環境土木科1年生30人が参加。帯広建管発注の3・2・309芽室町2丁目通改良(平田建設)と3・2・309芽室町2丁目通防安改良(新妻組・M.Z原田共同体)、帯広開建発注の札内川第2・2期地区戸薦5号配水幹線用水路ほか(高堂建設)の3現場を回った。出発前に山内信男労務

委員長は、技術者の高齢化など業界を取り巻く状況を生徒に説明。「防災対策などを続けるには若い技術者の力が必要。新卒者採用の機運が高まっている」と呼び掛けた。

2丁目通改良の現場では、現場代理人の松崎光春さんが16日の大雨で受けた被害の復旧作業をしていることを説き、「土木の仕事は自然が相手。環境が変化する大変さと面白さがある」と紹介。また、2丁目通防安改良の現場では、70センチ径クレインを用いたH鋼の打ち込み作業を見学した。